

ふるさと講座歴史系第2回目を実施しました。

「アイヌ文化とチャシ跡」

～床丹1 チャシ跡発掘調査現地説明会～

7月12日（土）今年度、発掘調査を実施しているアイヌ文化期の床丹1 チャシ跡に関連して、講演会と現地説明会を開催しました。

講演は、「アイヌ文化とチャシ跡」と題して北海道教育庁生涯学習推進局文化財博物館課主査田才雅彦氏にお話をいただきました。北海道の歴史の中でのアイヌ文化の位置付けや遺跡として残されたチャシ跡、道内での発掘調査例などご紹介いただきました。

現地説明会は、床丹1 チャシ跡にて、発掘調査の進捗状況や成果などを聞き、天気も良くチャシの上から見る風景は見晴らしが良く、アイヌにとって象徴的なシンボルであったことを改めて実感させられました。



サマースクール「おかし、おかしなべつかい」を実施しました。

「まが玉作りに挑戦しよう」

8月7日（木）・8日（金）に開催しました。参加者は25名です。はじめに、別海町の大昔のお話をしました。縄文時代の遺跡、土器、石器、人骨など遠い昔から生活の営みがあったことがわかったかと思います。そうした中で、縄文人が装飾品として身に付けていた「勾玉」作りに挑戦しました。石は滑石を使いサンドペーパーで真剣に削りました。2時間ほどで思い思いの勾玉が完成しました。参加してくれた小学生は夏休みの工作として出品するそうです。



7月の郷土資料館の様子

●職場体験

7月9日（水）～11日（金）別海中央中学校3年福沢辰亮君が当館に職場体験に来ました。初日は、床丹1チャシ跡での発掘調査、2、3日目は、雨天のため室内でジオラマ作りを行いました。手先が器用で、楽しみながら職場体験をしました。

また、7月28日（月）～29日（日）には、別海高等学校2年の広瀬元春君がインターンシップのため当館で実習を行いました。2日間とも床丹1チャシ跡での発掘調査となりました。部活や家の手伝いで培われた体力を存分に発揮していただき、良い経験を積むことが出来ました。



●北方四島交流事業団の見学

7月11日（金）北方四島交流事業団30名が、当館を見学しました。郷土資料館では、巨大ヒグマやマンモスゾウ臼歯化石、動物の剥製に興味があるようでした。加賀家文書館では、アイヌ民族のアツシ（樹皮衣）などを着用してもらいました。



床丹1チャシ跡発掘調査が終了しました。

6月2日（月）から開始しました調査も8月8日（金）で無事終了いたしました。町民の皆様や関係各位のご支援・ご協力により大きな成果を上げることが出来ました。調査の成果については、まとめ次第報告したいと考えています。

別海町郷土資料館だより No.181

発行日 平成26年8月10日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802（FAX 兼）

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

2ヶ月の短い調査でしたが、大きな成果を上げることができました。国道付近ともいうこともあり、頻繁に往来していましたが、調査をしていくとすばらしい規模のチャシ跡であったことがわかりました。成果報告は、また後ほど行います。（K.I）

